

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 30 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530577

研究課題名(和文) 社会・経済変動と家族観の変容のメカニズム：文化的発達研究の理論化に向けて

研究課題名(英文) Mechanisms of the "Family" conceptions reflected socio-economic changes: A quest for the theory of cultural developmental research

研究代表者

塘 利枝子(TOMO RIEKO)

同志社女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：00300335

研究代表者の専門分野：発達心理学・文化心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：文化変容、社会変動、教科書、家族観、発達、経済変動

## 1. 研究計画の概要

(1)本研究の目的は、東アジア諸国の第二次大戦以降の社会・経済変動と、人々が構築してきた家族観の変化との関連性とそのメカニズムを、教科書分析という手法を用いて明らかにすることである。

(2)本研究の内容は大きく2点にまとめられる。①東アジア4ヶ国(日本・中国・韓国・台湾)の歴史的関係の中での社会・経済変動と、各国・社会全体の家族観との関連性を、4ヶ国の1950～2010年の国語教科書の内容を分析することで明らかにする。②各国・社会全体で共有する家族観と、各世代の個人が所有している家族観の発達との関連性について分析する。

以上の分析を経て、文化的発達研究の理論化を試みる。

## 2. 研究の進捗状況

## (1)各国の教科書の翻訳と内容分析

4,500枚にも及ぶ韓国、中国、台湾の1950～2000年の教科書の翻訳が、数人の外国人研究協力者の協力を得てほぼ終了した。それに伴い、家族構成、親役割、性役割に関する分析が終了し、統計的検定を経て日本も含む4ヶ国を比較した結果を考察した。現在は家族内葛藤に関する分析が進行中である。

## (2)教科書の内容分析と個人の家族観との関係分析

個人への質問紙及び面接調査のためのプレテストを終了し、項目を再吟味した上で、調査をする準備を進めている。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

その理由は以下の通りである。

前記の通り、韓国、中国、台湾の教科書の翻訳がほぼ終了した。この作業は本課題の基礎データとなるため、この作業が終了したことは大きな成果だと位置づけられる。それに伴い、社会経済変動に関する歴史的な背景についての資料収集がほぼ完了した。学会等で随時発表を行い、2011年度も国際学会等での発表を予定している。

しかし一方で、2010年刊行の教科書については、翻訳も含め現在進行中である。2000年～2010年への教科書の内容の変化は、4ヶ国とも非常に大きいと推測される。したがってこれらの翻訳を含めて、残りの1年で分析を進める予定である。また社会が共有している家族観と、個人の家族観との関係性についての分析を2011年度で行う予定である。

## 4. 今後の研究の推進方策

## (1)2010年刊行の韓国・中国・台湾の教科書翻訳と分析

2011年度に予定している2010年刊行の韓国・中国・台湾の教科書の翻訳に加えて、日本の教科書についても分析を進める。さらに2000年～2010年にかけての社会・経済的変動に関する歴史的資料も収集する。

## (2)社会が共有している家族観と個人の家族観との関係性

教科書に描かれた「社会が共有している」と思われる家族観と、個人が持っている家族観との関係性について、社会経済変動との関係も踏まえ、質問紙調査や面接調査を行う予定である。これらの分析を行うことによって、社会で共有された価値観が個人にどのような形で浸透していくかについてのメカニズムを明らかにすることができると思う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 塘 利枝子・川口陽子、日仏の国語教科書に描かれた親子間の葛藤処理方略、同志社女子大学『現代社会フォーラム』、7号、40-53、(2011)、査読有
- ② 塘 利枝子、生涯発達における文化間移動—青年期までのアイデンティティ形成を中心にして、異文化間教育、31号、19-32、(2010)、査読無

[学会発表] (計 7 件)

- ① 塘 利枝子・金 娟鏡・高向山、東アジアの教科書に描かれた親役割の変容メカニズム、日本発達心理学会第 22 回大会、2011 年 3 月 25 日、東京学芸大学
- ② 塘 利枝子・金 娟鏡、教科書に描かれた日本と韓国の親役割の変化—育児をめぐる社会状況は親役割の理想像にどう反映するのか、日本教育心理学会第 52 回総会、2010 年 8 月 27 日、早稲田大学
- ③ 塘 利枝子・鄭任智、社会・経済変動と家族観の変容—日本と台湾の教科書に見る子ども、発達心理学会第 21 回大会、2010 年 3 月 28 日、神戸国際会議場
- ④ 塘 利枝子、社会経済変動と期待される自己との関係性(2)—1950 年から 2000 年の台湾の教科書に描かれた「いい子」像の変容、日本心理学会第 73 回大会、2009 年 8 月 26 日、立命館大学
- ⑤ 塘 利枝子、社会経済変動と期待される自己との関係性—1950 年から 2000 年の教科書に描かれた「いい子」像の変容—、日本心理学会第 72 回大会、2008 年 9 月 21 日、北海道大学
- ⑥ Tomo,R.、“What is family?” in Four East Asia: Cultural Comparison of “Family” displayed in Japanese, Korean, Chinese and Taiwanese textbooks、XXIX International Congress of Psychology (ICP)、2008 年 7 月 24 日、ドイツ (ベルリン)
- ⑦ 塘 利枝子、日本・韓国・中国・台湾における「子どもを預けること」への価値観—国と世代間の比較—、日本保育学会第 61 回大会、2008 年 5 月 18 日、名古屋市立大学

[図書] (計 5 件)

- ① 塘 利枝子、東アジアの教科書に描かれた自己表出、榎本博明編著『自己心理学の最先端—自己の構造と機能を科学する』、あいら出版、(2011)、総ページ数 315

頁、分担部分 241-254 頁

- ② 塘 利枝子、世界の教科書にみる家族、柏木恵子編著『よくわかる家族心理学』、ミネルヴァ書房、(2010)、総ページ数 217 頁、分担部分 22-23 頁
- ③ 塘 利枝子、自分自身を知る—自己の発達、向田久美子・石井正子・繁多進編著『新 乳幼児発達心理学—もっと子どもがわかる好きになる』、福村出版、(2010)、総ページ数 197 頁、分担部分 61-71 頁
- ④ 塘 利枝子、教科書に描かれた発達期待と自己、岡田努・榎本博明編『パーソナリティ心理学へのアプローチ』、金子書房、(2008)、総ページ数 215 頁、分担部分 148-166 頁
- ⑤ 塘 利枝子、社会・経済変動と家族—教科書を通してみた家族の変化、柏木恵子監修・塘 利枝子他編『発達家族心理学を拓く—家族と社会と個人をつなぐ視座』、ナカニシヤ出版、(2008)、総ページ数 200 頁、分担部分 97-111 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]